

代表取締役

海老原 博文

お客様のニーズに合わせた事業を手掛ける 左官工事のプロフェッショナル集団

鹿児島市で、左官工事・外構工事・エクステリア一式工事を手掛ける「呉建」。2007年の創業以来、人とのつながりを大切に仕事へつなげてきた海老原社長は、左官として培った手作業の味を武器に、その腕一本で会社を成長へと導いた人物だ。常に学ぶ精神を持ち、さらなる飛躍を目指す代表のもとを俳優の志垣太郎氏が訪問。代表の歩み、原動力、将来の夢など様々なお話を伺った。

——まずは海老原社長の歩みから。

福岡県久留米市出身で、鹿児島で育ちました。私は実は養護施設出身でして、高校中退後に、15歳で大阪に本社を構える左官業と鉄筋工事を手掛ける会社に入り、名古屋に出てきました。7〜8年を名古屋で過ごし、そこから鹿児島に戻りました。その後いろいろな現場から呼ばれるようになったタイミングで独立を果たしました。27歳の時のことです。

——お若くして独立されたのですね。独立後は順調だったのですか。

最初は一人でスタートしましたが、お陰様で仕事はずっと声を掛けていただいております。5年目くらいから事業が安定していき

ました。要因を挙げるとすれば、いただいたお仕事を断らない、ということ。当時の私は「まだ仕事を選ぶには早い」と思っていたのです（笑）。その様な経験から人とのつながりが増え、手間味噌ですが信頼を獲得できたのだと感じています。

——順調にいられていますね。現在従業員さんは何名くらいです？

現在の従業員数は4名と、専属で当社に付いて下さる協力事業者さんが3名います。当社は左官以外に外構・エクステリア一式、排水管高圧洗浄、リフォーム・店舗改装なども手掛けているため、より多くのお困りに応えられるのが強みと感じています。建設業界は日々技術の進歩が進み、勉

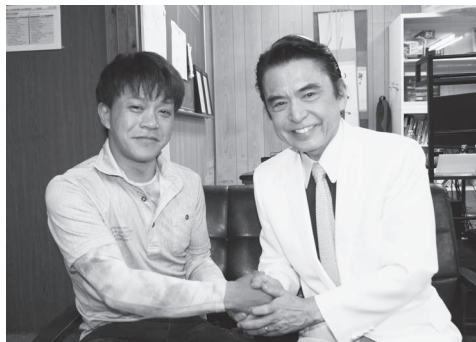
強が必要な職種ではありません。それに、基本が出来なくては関連している作業も出来ませんからね。

——左官にこだわってここまで来られたことが素晴らしいですね。代表が人とお付き合いをされる上で、大事にされていることはありますか？

嘘を付かないこと、安請け合いはしないこと。この2つを心がけています。そうしないと、逆にお客様に迷惑を掛けてしまいますからね。先程もお話しましたが、私は養護施設出身なので、辛い・恥ずかしい・カッコ悪いことはできないという思いがあります。上下関係があるこの世界で、その時その時をクリア出来てきたのは、きっと私が養護施設出身だからこそ苦にならなかったから、ということもあるのかなと感じていますよ。

——最後に、5年先10年先の代表の夢や目標をお聞かせ下さい。

歳を取ったら海の家を開いて、ゆっくりしたいですね。そのためにも、私の後を任せられるような人材の育成にも今後は注力したいと思っていますよ。



ゲストインタビュー

志垣 太郎 (俳優)



「10代のころから業界に入り、技術を磨いてきた海老原社長。その技術力の高さに慢心することなく周囲の人々を大切に歩んでこられていますね。今後ますます頑張ってくださいたいですね！ 応援していますよ」

株式会社 呉建

鹿児島県鹿児島市宮之浦町 1444-1

URL : <https://www.kouken-kagoshima.com/>